



英文記事コーパスと大型計算機上の簡易BBSを用いた時事英語教授の試み

著者	西納 春雄
雑誌名	同志社大学英語英文学研究
号	64
ページ	161-180
発行年	1995-03
権利	同志社大学人文学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000001755

英文記事コーパスと大型計算機上の 簡易BBSを用いた時事英語教授の試み¹⁾

西 納 春 雄

1. はじめに

国際間の情報伝達がかつてないほど発達してきている近年、大学の英語教育の場においては時事的内容の英語²⁾を教授する機会が増えている。一方で大学の語学教育においては、学習者の多様な関心と習熟度に応じて個別的な学習指導を行うことも望まれている。これらはそれぞれが教授指導上の固有な問題を含んでいるが、近年著しい発達とキャンパスへの導入をみているパーソナル・コンピュータのすぐれた情報管理能力を授業の中にうまく生かせば、それらの問題を相補的に解決する道が見えてくるのではないか。そのような観点から、既存の汎用大型計算機とその端末機を語学教育に利用することを工夫し、時事英語を教授するクラスを設けた。

クラスの概要は以下の通り。教科書を用いて時事英語の基本的な読みを指導する一方で、大型計算機のファイル管理システムを利用して、大型機上にオンライン・データベースから取得して精選した大量の英文記事を機械可読ファイルとして保存し³⁾、学習者個々の関心に応じて記事を端末機から自由に取得する簡易BBS（電子掲示板）システムを構築した⁴⁾。目標としたのは、1) 時事記事の基本的な読解能力を習得すること、2) 個別的な関心に対応した教材を与えて学習者の自発的な読解活動を促進すること、3) 時事的事象への理解を深化し関心を拡大すること、4) 機械可読データを編集し集積することを通して知的資産の形成と運用能力を修得すること、である⁵⁾。試行的なクラスであったが、受講生の英文読解量と提出物、授業への反応か

ら考察して、その目的は充分達成されたと感じている。以下にクラス設置の背景と実践の記録を紹介し、あきらかになった今後への課題を指摘する⁶。

2. 時事英語教授の必要性和問題点

時事英語教授の必要性：現在、より実用的な英語、より時事的内容の濃い教材を学びたいという学習者からの要求がこれまでも増して高まりつつあり、教師側もこれにこたえなければならぬ状況が存在する。この背景としては、国際語としての英語の位置づけが確立し、情報伝達・情報取得の道具としての英語が重要になっていることがあげられる。特に近年、新聞雑誌はもちろんのこと、衛星放送などメディアの発達により、海外の話題は、ほぼリアルタイムで、しかも原語のまま聴視でき、政治・経済ばかりでなく、ファッション、音楽、スポーツなどを通じて、学習者の関心は海外の様々な事象に向けられている。また、先年の大学設置基準の大綱化以来、語学教育においても学習者の専攻領域を考慮した教材選択が要求されるようになったが、時事的内容を扱う記事は、内容が多岐にわたるため、そのような要求を満たすこともできる。このような状況を反映して、近年発刊される大学英語教材に占める時事的要素の割合も高まってきている。

問題点：時事英語を教授する際にもっとも問題となるのは、内容的分量的に良質な教材を準備し時宜を得て提供することである。市販教材を採用する際には、教材編集時期と学習時期の間の時間的なずれのために、国内外の情勢が変化し、記事内容が新鮮さを失いがちである。また、収録されている記事の分量も決して充分とは言えない。教師自身が授業のために教材を準備する場合にも、個々の教師が冊子体の新聞雑誌に日常的に目を通し、話題の展開を追って記事を収集してゆくことには限界がある。CD-ROM化された新聞雑誌を利用できるならば良質な記事を効率的に入手できる可能性が高いが、この場合にも記事内容と現実の間のタイムラグは避けられない。また、CD-ROMは比較的高価であるために、多種を購入できない場合、また継続

的に購入できない場合には採用可能な媒体数も限られる⁸。現在、商用コンピュータ・ネットワークや専用回線を通じて利用できるオンライン・フルテキストデータベースがあるが、これを用いた記事検索は、過去から最新の記事に至るまで多種の媒体から材料を取得できて便利である⁹。しかし、検索しダウンロードするには経費が一般に非常に高くつき、その負担はほとんどの場合個人にかかってくる。このように、時事英語教授の要求はますます高まっているが、良質な記事を容易に取得できる環境を確保することが課題である。

3. 学習の個別化の必要性和問題点

個別化学習の必要性：筆者が勤務する同志社大学のような大規模な総合大学においては、様々な専攻の学生が同一の英語クラスに存在する。また、学生のライフスタイルも近年高度に多様化しているので、専攻を同じくしていても、学習者個々の関心の所在はきわめて多様である場合が多い。時事英語クラスで単一教材を用いた一斉授業は、当初の基本的な読解を手ほどきする時期には効果的であるが、学習者の拡大する関心に逐一対応してゆくことはむずかしい。時事英語は特に広範な領域の記事を取り扱うので、関心を喚起された学習者の問題追求の深化と自発的な探求に対応できる柔軟な指導が求められる。さらに学習者の英語力に応じて、その力にふさわしい教材を提供することも望まれる。

問題点：最大の問題点は、上記2で指摘したと同様に、良質な教材を個々の学習者にいかに効果的に提供するかにある。単一教材一斉授業の弊害を廃し、かつ内容的によく吟味された教材を準備するには、教師の側が時間的かつ財政的に相当な負担を覚悟しなければならない。加えて問題となるのは、個々の学習者の希望する教材をもれなく配布することの煩雑さである。関心分野の調査、記事の取得と選別、少量多種印刷、教室での配布、残部回収、欠席者への後日配布はきわめて煩瑣であり、多大な時間的精神的負担を強い

られる。このように、時事英語教授においては関心の深化にともなって学習を個別化してゆくことが望ましいが、そのための条件を整備することも重要な課題である¹⁰。

4. TSS教室を利用した時事英語クラス

上に指摘した時事英語教授と個別学習指導の課題を効果的に解決する目的を持ちつつ、1993年度に実験的な時事英語講読クラスを設けた。新聞雑誌記事の取得は、大学が契約する固定料金制のオンライン・フルテキストデータベース LEXIS/NEXIS を利用し、教材の保存と配布は、大型計算機上に簡易 BBS¹¹を作成して行った。個々の学習者が電子ファイルとして提出した読書レポートを全員で共有し、読解の助けとするとともに、関心の拡大と理解の深化をはかった。以下にその詳細を解説する。

LEXIS/NEXIS¹²：オンライン・フルテキストデータベースを利用することで、記事は直接機械可読ファイルとして入手でき、保存整理がきわめて容易になった。LEXIS/NEXISからは、英米の約 700 の媒体の過去十年以上にわたる本文記事が取得できる。最新の話題はもちろんのこと、過去に遡及して関連記事を入手することも可能である。LEXIS/NEXIS は大学が固定料金制のアカデミック・レートで契約しているために、検索料金の個人負担はない¹³。

図 1. LEXIS/NEXIS から取得した雑誌記事 (<>内の語は検索に用いたキーワード)

Copyright 1992 The Time Inc. Magazine Company
Time
October 26, 1992, U.S. Edition

SECTION : COVER STORIES; Pg. 66
LENGTH : 2633 words

HEADLINE: THE WORLD IN 3300 B.C.;
In the <Iceman's> day, Europe was a quiet agricultural backwater.
The action was in Egypt and Mesopotamia, where civilization was
beginning to flourish.

BYLINE: By MICHAEL D. LEMONICK;
Reported by Andrea Dorfman/New York and Marlin Levin/Jerusalem,
with other bureaus

BODY :
THINK OF THE <ICEMAN> AS A SORT OF prehistoric Daniel Boone: a
leather-clad outdoorsman, equipped with the Stone Age equivalent of a
bowie knife and plenty of mountain know-how. Now imagine the reception
the roughhewn pioneer might have got if he had shown up, coonskin cap
and all, to greet the erudite Thomas Jefferson at Philadelphia's Second
Continental Congress — or if he had strode into the elegant court of
Louis XV to mingle with the bewigged nobles of France.
.... (以下省略)

情報処理環境：日立製大型計算機 HITAC M-660/160E と結ばれた B16XW
85 台がスター型に接続する¹⁴ラップトップコンピュータ T S S 教室¹⁵。大型計
算機のファイル管理システム¹⁶とファイル転送システム¹⁷を、教材保存、配布、
印刷に利用した。B16XW 上で作動するソフトウェアとして、日本語ワード
プロセッサ「一太郎 Ver. 4.3」, フルスクリーンエディタ「Final」を使用。

学生：学部2年生。登録学生46名，うち2名落伍。文学部7名，法学部22名，経済学部4名，商学部8名，工学部3名。男子27名，女子17名。

授業：前期は *TIME: We the People* (NTC, 1989) を教科書に用いて時事英語の読みを手ほどきする一方で，スタンドアロンの環境でコンピュータを用いる基本操作を教えた(4, 5, 6月)。読みの手ほどきでは，記事の種類がすべて news article なので，headline, lead, body に分割されるその構成を理解させ，かつ topic が冒頭にくる逆ピラミッド型のパラグラフ構成を，また個々のパラグラフの topic を理解した上で，パラグラフ同士の有機的な連関と論旨の展開を把握するよう指導した。特に *TIME* 誌の場合には，説明的というよりもむしろ描写的な独特の lead 部分が学習者にとって難解な場合が多いので，この部分の機能に関しては重点的に解説した。この間に精読したのは，教科書から選択した日米の文化の相違を考える手がかりになる内容の記事5つである。これらを読了後学習者個々に教科書中から記事の一つを選択精読させ，授業時間を利用して個別に読解指導し，学習内容を反映する形の前期レポートとして提出させた。すなわち，レポートは，1) 全体の要約，2) 論旨の展開をふまえて複数の段落をまとめた詳細な要約，3) 単語集，4) 評釈，から構成すること，かならず機械可読ファイルとして提出することを要求した(提出レポート平均約3000字 [和文]) (6, 7月)。この際単語集には当該記事を読みこなすために最低限知らねばならない語彙を厳選させ，評釈には日本における類似した事件や事象との比較を必ず盛り込むように指導した。なお，レポートは日本語で書くことを要求した¹⁸。

上記と並行して，学生から購読希望の記事内容をつのり，キーワードを手がかりに，LEXIS/NEXIS にアクセスを開始した。時事英語記事約700を選択してダウンロードし，その中からさらに精選した370をトピック別に約240のファイルに統合した(1ファイル平均約2700語)。それぞれのファイル名は記事の内容を示唆するものにした(例：AIDS_ORG.TXT：エイズの起源に関する記事，GUN01.TXT：銃規制に関する記事その1)。記事はトピック

クと数においてできる限り偏りなくそろえるよう努力した¹⁹。教科書には犯罪事件の報道と政治問題が欠落していたので、取得記事中にこれらを補った²⁰。トピック別に出典、タイトル、語数を抜き出してインデックスファイルを作成し、さらに連絡伝達用ファイルを作成し大型機に送信保存して簡易BBSとした。

図2. 教材一覧用インデックスファイル

```
-----  
ABBOTT1.TXT : Copyright 1992 The New York Times Company  
             : LENGTH : 2151 words  
             : HEADLINE : BASEBALL; A Most Extraordinary Fella  
ABBOTT1.TXT : Copyright 1992 Star Tribune  
             : LENGTH : 839 words  
             : HEADLINE : Disabilities don't stop fame; Many  
                       achieved note despite physical  
             (途中省略)  
-----  
AIDS4.TXT   : Copyright 1992 The Houston Chronicle Publishing Company  
             : LENGTH : 492 words  
             : HEADLINE : Committee to study <AIDS origin> theory  
AIDS4.TXT   : United Press International 1992  
             : LENGTH : 761 words  
             : HEADLINE : Researchers to probe theory on <AIDS origin>  
AIDS4.TXT   : Copyright 1992 The Houston Chronicle Publishing Company  
             : LENGTH : 676 words  
             : HEADLINE : Scientist frustrated in bid to test <AIDS  
                       origin> theory  
-----  
.... (以下省略)
```


後期には個々の学生が前期のレポートを修正した上で記事内容に関して口頭発表し、他の学生と教師が発表内容を点検し批評した(9,10,11月)。この際レポートは前もって全員に印刷物の形で配布し、批判的に読みつつ予習の際に参照して手助けとするよう指導した。その際には、読みの正確さ、論旨の把握の的確さ、語彙解釈の正確さ、評釈の独創性の有無に特に留意して読むように指導した。発表する学生には、事前に再度読み直して必要があれば発表中に内容を修正する猶予を与え、学習者の中から10人づつをそれぞれのレポートのコメンテーターとして割り当て、特に批判的に詳細に読むよう指導した。これと並行して、授業時間の一部を用いて大型機に準備したファイルを開覧、取得、印刷する方法を教え、ファイル取得と個別の読解指導を開始した(10,11,12月)。また、必要に応じて、大学図書館の関連文献や参考文献(辞書、統計資料など)を参照することを奨励し、補足的な資料を用いて理解の助けをはかるよう指導した。最終レポートは、2000語(英文)を目安に記事を取得して(複数記事選択可)、前期と同様にまとめ、提出することを課題とした。この末尾にはBBSの記事以外で参照したレファレンスと書籍を、大学図書館の検索番号を付けた書誌としてつけ加えて提出するよう指導した。これを回収し評価採点の後、全員のすべてのレポートと、後期レポートの素材となった本文記事をフロッピーディスクに納めて学生に返却し、必要に応じて後日参照するよう指導した。

図3 学生のレポート例

英語C-53 後期末レポート 法学部 政治学科 XXXX番 XXXXXXXXXX

COLLEGE1.TXT

<全体の要約>

毎年わずかではあるが、生徒が殺到するような人気の講座がいくつかでてくる。その人気の理由は、講座の内容が生徒にとって取組みやすいように、

最近話題になっているものを使ったりしているからである。しかし一方では、講義の内容は退屈なものであるのに人気があるものもある。それは教授を目標てにして生徒達が集まっている。このような講義の中には楽に単位のとれるものもあるが、生徒達は講義が面白いので引きつけられるように出席する。

<まとめりごとの要約>

★ホットな論題の講義（1～4段落）

ボストン大学のボスキン教授は、自分の講義が風変わりなものだと認めた。彼の講義の論題は「20世紀のアメリカにおけるユーモアと社会の変化」であるが内容はメル・ブルックスやウッディ・アレンの映画を見た後に議論するというものである。この講義には220人も生徒が出席している。毎年わずかではあるが、生徒を引きつける講義がでてくる。ハーバード大学ではサンデル教授の、最近話題になっている陸軍内の同性愛者や、代理母等を扱った「裁判」に、最高記録の910人が殺到した。Brandeis 大学では「市民的自由」、マサチューセッツ大学では「60年代」に人気がある。驚く事ではないが、セックス、犯罪、現代の文化についての講義に生徒はもっとも引きつけられるようである。...（途中省略）

<単語集>

- | | | |
|---|------------------------|--------------------------|
| 1 | oddball | (形) 風変わりな |
| 4 | a handful of
magnet | (形) わずかの
(名) 人を引きつける物 |
| 5 | pile into
captivate | (動) 殺到する
(動) 心を奪う |
| | surrogate motherhood | (名) 代理母 |

....（途中省略）

<評釈>

以前、私は「大学の国際化」という題名で議論する機会があり、それについて調べたことがある。その中でも私は、日本の大学と外国の大学の違いについての担当だったが、やはりアメリカやイギリスの大学は、その水準を下げたくないためだと思うが、教授達を評価する人が大学にいるというのを知って驚いたことを覚えている。大学に入ってくる前は、勉強の意欲に燃えていたが、実際に入ってみると教授の側の教える意欲が伝わってこないの

に失望したり、教室の生徒の多さに一瞬尻込みをしたりで大学のはこういう所だったのかと落胆したというのが本音である。しかし、そういう中でも頑張っている教授や、面白い授業もある.... (以下省略)

5. 学習効果の考察

提出レポートと学生の主観的な反応を記録したアンケートを中心として学習効果を推測する限り、冒頭に掲げた1) 時事英語の基本的な読解力の習得、2) 個別学習の推進、3) 時事的事象への理解の深化と関心の拡大、4) 機械可読ファイルの蓄積による知的資産の形成と運用、という当初の目的はほぼ達せられたものと判断する。ただし4) に関しては、これが習慣化するかどうかを知るには追跡調査が必要であろう。

個別学習と読解量：前期レポートと後期レポートには学生の多様な関心が反映された。特に後期レポートにおいては、選択された記事は延べ60、重複を除くと35であった(平均約2200語)。複数記事を選択した学生は14人で、うち12人が関連した話題の展開を追った。前期後期を通じて、学生はクラス内での読解と自主的な読解で記事を約30本(一本平均1200語)読んだことになる。

授業の評価：大多数の学生がこのクラスを第一希望で登録した(96.9%)。後期末に調査した授業に関するアンケート(五肢択一)の結果は表1のとおり。それによると授業への総合的な満足度は高い。英文の読解力に関しては、年度初頭よりも読解力が向上したと感じている学生が多い。学習する記事の英語は難しいと感じているが、必ずしもやさしい英語を求めているわけではない。

アンケート(記述式複数回答)においては、肯定的な意見としては、コンピュータを使えるようになったこと(18名)、多様な教材が読めたこと(6)、

多様な教材を自主的に選択できたこと (5), 新しい教材が入手できたこと (2), 意見をまとめる訓練ができたこと (2) などがあつた。改善点としては、欠席者が多い (5), 英文読解以外の作業 (機器の操作習得) に時間がかかりすぎる (4), 予習が徹底していない (3) 等が指摘された。

表 1

	5 + 4 (%)	2 + 1 (%)
授業には満足している	90.3	6.4
英文を読んでまとめる力がついた	50.0	16.1
コメントをつける力がついた	40.0	20.0
英文をよく読めるようになった	42.9	21.4
英文を速く読めるようになった	40.7	22.2
段落の構成が理解できるようになった	55.2	13.8
このクラスで扱う英語はむずかしい	59.4	21.9
英語はもっとやさしい方がよい	34.5	37.9
(5: 強く思う 4: 思う 3: 普通 2: 思わない 1: 全く思わない)		

6. 結論と今後の課題

本来プログラミング教育やデータ解析を目的とする大型計算機の T S S システムに間借りする形での簡易 B B S の構築であつたが、時事英語の基本的な読解力を養成し、多様な内容の教材を与えて選択させ、学習者の興味を喚起し、個別化された学習を指導し、かつ個々に知的な資産を形成するという当初の目標はほぼ達成されたと感じている。

今後の課題としては、第一に記事コーパスの充実があげられる。学習者の関心と社会情勢の変化をふまえながら、大学で教えるに値する良質の記事を蓄積していかなければならない。さらに、準備した記事を、トピックに加えて、語数、語彙の難易度別に分類し、学習者の習熟度を考慮した教材を配布する工夫をすることも必要である²⁾。また、機器の操作を教えるために多くの時間を割かねばならないことから、履修学生の人数を減らすとともに、必要に

よっては授業補助者などを用いて、本来の読解指導のためにより多くの時間を費すことのできる体制を作る必要がある。記事選択や内容理解には、図版や写真などの果たす役割が大きいのが、これが提示できなかったこと、新聞雑誌現物に触れないことの是非の考察も課題である。

指導の上での今後の課題として最も重要と考えられるのは、時事記事に対する学習者の健全な批判能力を養うよう留意することであろう。一般に欧米の新聞雑誌は個人の記者が書き、個人的見解が強く反映されることもあるので、記事を読む際には、その記事が特定の事象に対するそのメディアなりの公式見解や真実であると信じ込むことがあってはならない。時事事象への関心を日常的に継続して持ち続けることを奨励し、分析する事象に関する理解を深化し、できれば同一事象を異なった観点から論ずる記事を比較検討することによって、マス・メディアの影響に左右されない批判力を養わなければならない²²。

現在大学に設置されている情報処理機器は、ほとんどの場合語学教育以外の目的で導入されている。これらの機器は、工夫次第ではきわめて効果的な語学学習の道具となり得る²³。教育の刷新を目指し、語学教育に新たな目標を掲げるならば、既存の教授法の壁を突き崩す努力が必要である。学生は新しい道具を使い始めることに何の抵抗もない。教授者の側が、新たに開発され導入される機器の利用法を学びとり、教授法開拓の意欲を持ち、積極的な情報交換を促進することによって、新たな語学教授の地平が開けることを覚えねばならない。

注

1 小論は、1994年8月3日甲南女子大学で開催された、語学ラボラトリー学会(LLA)第34回全国研究大会において、同じ表題のもとに行った口頭発表の原稿に加筆訂正を行ったものである。本論においては、時事英語教授のためにコンピュータシステムをいかに活用するかに重点を置いて論じている。時事英語の指導方法や、学習者の学力の客観的な評価方法は、まだ模索の段階であり、本論においては決し

て十分には議論できていない。これらは今後このシステムによる学習指導をさらに洗練する課程で明らかにしてゆきたいと考えている。

2 小論で言及する時事英語とは、新聞・雑誌やテレビ・ラジオなどの日常的なメディアに乗せて発信され、ニュース報道など時事的話題を伝達する際に用いられるメディアの英語 (Media English) の意味で用いる。時事英語、メディア英語の定義に関しては、浅野 (1992) を参照のこと。

3 英語学習を目的としたデータベースの構築は、教授者が準備のために、あるいは教材の用語分析のために個人レベルで用いる目的でなされてきた。小規模な英文データベースや語彙データベースがそれである。本論において扱うデータベースは、ネットワークを通じて供給される教材データベースである。前者の例としては、小川 (1991)、金田 (1991) を参照。

4 新聞雑誌記事の利用に際しては、必ず記事の著作権の問題がつきまとうが、小論では、著作権の問題は、個々の教授者の責任において解決するものとして取り扱う。なお、クラスで利用したデータベースに関しては、著作権に関して、了解をとったうえで教材とした。

5 語学教授の準備段階においてもっとも大切なのは、学習者の能力を把握して、明確な目的を掲げることであろう。コンピュータの導入において、もっとも留意すべきは、コンピュータがあくまでも語学学習を能率的に行うための「道具」であり、「目的」ではないということを確認することであろう。この点に関しては梶川(1992)、Pamela and Alan Maddison (1987)参照。

6 先行研究成果および実践報告を、筑波大学のUTOPIAシステムのRIE (Eric Resources in Education) を用いて検索した。computer, language, learning, CAIなどをタイトル・キーワードに検索した結果、1983年から現在までに数百件の文献のヒットを見た。抄録を出力して詳細に検証したが、記事データベースをこのような形で構築し利用するこの方法の先行あるいは類似研究は見いだせなかった。文献と方法論に関しては、今後もさらに調査を続ける一方で、類似した研究の情報を収集してゆく予定である。

7 教材を取得したLEXIS/NEXISには、新聞やニュース雑誌ばかりでなく、*The Atlantic Monthly*などの月刊誌や、*Billboard*や*People*それに*Sports Illustrated*など、英米の知識階級の興味のあるところを、また若者たちの間での流行をじかに感じとれる媒体も多く収録されている。

8 現在時事報道のCD-ROMとしては、ITN, *Newsweek*, *TIME* などから、特定の問題を特集した形で、また年鑑の形でも入手できる。Berger(1993), Terbill(1993), Weide(1992)を参照。CD-ROMの入手はEDUCORP(FAX: 1-619-536-2345)やCD-ROM WAREHOUSE (via CompuServe)などへの海外への直接発注 (個人輸入) が、豊富な

在庫の中から安価に購入できる方法である。

9 現在「日経テレコン」(日系総合販売オンライン営業部 [Tel: 03-3256-2260/06-202-0931]) から利用できる英字新聞は、*The Japan Times*, *The Daily Yomiuri*, *The Mainichi Daily News* があり、NIFTY-Serve ((株)ニフティ営業部 [Tel: 03-5471-5804]) から、*The Washington Post*, *USA Today*, *The Times* など12種が供給されている。

10 学習の個別化の重要性に関しては、北尾(1992)、水越(1985)、山内(1993)を参照。Geiger(1993)は米国の初等教育におけるコンピュータを用いた学習の個別化の実践例を紹介している。また、Debenham and Smith (1994)は、コンピュータ・ネットワークの発達した社会においては、学校ばかりでなく家庭内や社会の中での個別化教育がコンピュータの利用によって可能になっていると論じている。

11 BBSとは、Bulletin Board System (電子掲示板システム)のこと。ネットワーク化されたコンピュータのホスト機上に端末から電子メールなどの形でファイルを送信保存し、メッセージボードとして利用するもの。この機能を利用すれば、非共時的に情報を共有することが可能となる。大規模なものとしては、商用ネットワークの会議室システム、さらに大きなものとしてはInternetの会議室システムNetNews(Newsgroup)やBITNETを中心に発達してきたMailing Listシステムなどがある。

12 LEXIS/NEXISは米国オハイオ州のMead Data Central, Inc.が供給する世界最大のフルテキスト・データベース。約700の媒体(判例、法令、新聞、雑誌、放送原稿など)から過去十数年分の資料が入手できる。日本においても法学部や経済学部の設置されている総合大学のほとんどが契約している。しかし、本来business school, law school, 企業や弁護士事務所などを対象にしているデータベースとの認識が強く、これを語学教育の材料取得に利用する試みはなされていない。詳細に関しては西納(1993)を参照。問い合わせ先は、日系総合販売オンライン営業部 (Tel: 03-3256-2260/06-202-0931)。

13 LEXIS/NEXISは現在、教育機関に対しては月額5万円の固定料金制をとっている。

14 スター型の接続とは、一台のホスト機にすべての端末機が一台ごとに直接接続する形態のことで、すべての端末には、同条件でホスト機の処理能力が配分される。大手商用ネットワーク(NIFTY-Serve, CompuServe)などは、遠隔地のアクセスポイントを介しても、すべてこの形態でホスト機と接続している。これに対するのが、ホスト機をちょうど網の結び目にするように配する接続形態で、これは分散処理型ネットワークと呼ばれる。結び目に当たるホストコンピュータは、まさにノード(node=結び目、結節)と呼ばれる。世界規模で広がるInternetはこの分散処理

型ネットワークのきわめて大規模なものであるといえる。近年はネットワークの発達と相互接続によって、スター型のホスト機もその独自の処理形態を保ちつつ、さらに大きな分散処理型ネットワークのうちに取り込まれてゆく傾向にある。詳細は西納（1993）を参照。

15 TSSとはTime Sharing Systemのこと。「時分割システム」と訳される。大型計算機の持つ超高速演算能力を、それに接続する端末機にごく短時間づつ分け与えて処理を行わせるシステム。例えば、大型機が一秒間に2億回の演算が可能とすれば、100台の端末が接続して同じ処理を行う場合、それぞれの端末は一秒間に200万回の処理を分け与えられることになる。TSS教室は、このようなシステムの下で、端末機を、主として大型計算機に複雑な数値解析処理を行わせたり、プログラミング学習のために利用するよう設計された教室である。

16 大型計算機のファイル管理システムは、パーソナル・コンピュータのそれと異なり、ディレクトリ構造を持たない。原則として、ファイル（大型計算機上ではデータセットと呼ばれる）は利用者に与えられたファイルスペースに並列的に並ぶことになる。このために、個々のファイルにはそれぞれ他と異なる個別の名前をつけて区別する必要がある。

17 大型計算機と端末間のファイル転送では、IFITやFTRANと呼ばれるファイル転送プログラムが用いられる。端末機と大型機の間では転送速度はきわめて高速である。大型機へのファイルの転送は、フロッピーディスクに格納した教材をこのファイル転送システムで大型機に転送する。大型機上では特殊なワードプロセッサ等を用いることができないので、送信するファイルは、ASCII文字のみでできあがった純粋なテキストファイル、しかも80桁以内に強制改行（CR+LF）のあるものが望ましい。

18 受講生の英語作文能力は長文の英語レポートを作成するには決して十分でなく、このクラスの目標とするものは読解能力であるため、基本的な語句の解釈、論旨の展開の把握を自ら判断するためにも、英語でのレポートよりも日本語のレポートが望ましいと判断した。英文レポートを書かせるには、トピックを英語で抽出させ、それを核にして記事の要約を行わせることから始めるなどの方法が考えられるが、今後の課題である。

19 教科書は記事をその内容によって、1. Lifestyles, 2. Education, 3. Nature & Environment, 4. Science & Technology, 5. Health & Medicine, 6. Entertainment & Sports, 7. Fads & Fashionのつのカテゴリーに分類しているので、ファイルの準備もこのカテゴリーを意識して行った。

20 犯罪記事で特に注目したのは、その前年ルイジアナ州で起きた日本人高校生殺害事件、大都市における麻薬の話題、幼児虐待の話題などである。特に最初の話

題は、翌日の新聞記事から陪審裁判，大陪審の裁判，その後のプレイディ法の成立に至るまでの記事，および“Shoot-the-the-burglar Law”と呼ばれるルイジアナ州法，そして日本国内からこの事件に対する反応を知らせる外電に至るまで，多角的に事件を検証する記事を集積した。

21 大学で教えるに値する「良質の記事」とは何か，に関してはまだ十分に議論できる準備がない。しかし，政治，経済に偏り，事件や事象の単に表層的な描写に終始し，時とともに流れ去るような記事ではなく，英米の文化や社会の深層を洞察するような内容を持つもの，地球規模の重要な問題に関わる記事，彼我の文化の相違を明確な形に切り出して見せる記事等が考えられる。

22 柳井(1993)は，今日のマス・メディアが，個人の環境認知に影響して，情報の過多によって，異なった3つのタイプの不適応人間を生み出す可能性を指摘する。

23 高橋(1993)と山田(1993)は，文系大学におけるコンピュータの利用に関する実践を紹介している。特に山田の試みであるLAN (Local Area Network) の語学教育への応用は，同志社大学においても開拓すべき方向であろう。

参考文献

- *オンライン・データベースより取得したものは，ページ数を一部省略した。
- Alexander, Jayne. "Multicultural literature: Overcoming the hurdles to successful study." *The Clearing House*, Vol.67, No.5 (1994), 266-.
- Berger, Pam. "The Best CD-ROMs for high schoolers: 29 Essential titles." *Laserdisk Professional*, Vol.6 No.6, (1993).
- Dehenham, Jerry and Gerald R. Smith. "Computers, schools & families: a radical vision for public education." *T H E Journal* (Technological Horizons in Education), Vol.22, No. 1 (1994), 58-.
- Geiger, Keith. "Hearts and minds: technology and the personalized classroom," *Electronic Learning*, Vol. 12, No. 5(1993), 50-.
- Maddison, Pamela and Alan. "The Advantages of Using Microcomputers in Language Teaching", *New Developments in Computer-Assisted Language Learning*, ed. by Douglas Hainline, London: Croom Helm, 1987.
- Stevens, Vance, ed. *A Bibliography of Computer-Aided Language Learning*, New York: AMS Press, 1986.
- Terbille, Charles. "Cheaper than college?! CD-ROM sources in the humanities: a crash course." *CD-ROM World*, Vol.8 No.5 (1993).
- Weide, Janice. "CD-ROM reference survey: includes directory" *CD-ROM Librarian*, Vol.7, No.11 (1992).

- 浅野雅也。「時事英語学論考（1）定義に関する分析と考察」成蹊大学文学部紀要第21号（1992）,1-23。
- 荒木暢也「メディア英語の読み方」『英語教育』東京：大修館書店 Vol. 42, No. 8（1993）, 46-48.
- 梶川祐司「語学教育のための情報機器利用」『異文化を知るための情報リテラシー』村山皓司・赤野一郎編，京都：法律文化社 1992, 136-139.
- 金田正也「教材の用語分析と語彙データベース」『英語教師のパソコン・ガイド』（『英語教育』別冊）東京：大修館，1991, 41-53.
- 北尾謙治「学習の個別化とCAI」『はじめてのCAI』京都：山口書店 1992, 69-81.
- 黒崎政夫「ミネルヴァのふくろうはコンピュータに卵を産めたか」『哲学者クロサキのMS-DOSは思考の道具だ』東京：アスキー出版局，1993, 373-409.
- 水越俊行『個を生かす教育』東京：明治図書，1985, 13-14.
- 西納春雄「オンライン・データベースへのアクセス」『英語教育』東京：大修館書店 Vol. 42, No. 3（1993）, 79.
- 「インターネットが世界をつなぐ」『英語教育』東京：大修館書店 Vol. 42, No. 4（1993）, : 81.
- 「インターネットの活用」『英語教育』東京：大修館書店 Vol. 42, No. 5（1993）, 81.
- 小川 清「このように活用できる英語のデータベース」『英語教師のパソコン・ガイド』（『英語教育』別冊）東京：大修館，1991, 31-40.
- 高橋覚二「コンピュータによるスペイン語教育実践」『電脳外国語大学』東京：技術評論社，1993, 162-173.
- 山田文人「文系大学への提言——LANを利用した外国語授業のコンピュータシステム」『電脳外国語大学』東京：技術評論社，1993, 174-177.
- 山内信幸「Towards a Better Understanding of CAI」『新島学園女子短期大学紀要』No. 10（1993）, 179-196.
- 柳井道夫「情報と世論——環境認知の観点から」『メディアと情報化の現在』（石坂悦男，他編）日本評論社，1993, 219-239.

Synopsis

Teaching Media English on a Mainframe BBS

Haruo Nishinoh

This paper examines effectiveness of computer-aided media English reading class.

There is a strong need for teaching media English today. The need is stronger than ever, as mass-media and international telecommunication have developed to a degree that could not have been imagined. There is, however, a difficulty in organizing a well functioning media English reading class. Methodology aside, the difficulty lies mainly in obtaining topical news articles of good quality.

There also is a need for individualized learning in media English classes. This is because, in a large university like Doshisha, a language class often consists of students of various majors, and even when their majors are the same, students show greatly varied interests. Using a uniform textbook is effective in an initial introductory period, but, as the students' interests deepen and widen we need to provide materials that stimulate their intellectual appetites. Providing the materials effectively to each of the students, however, poses another kind of difficulty. Printing and distributing materials to all the students without fail is also a time-consuming, troublesome task.

In 1993 I set up a media English reading class in a TSS room. The classroom was originally designed for programming and data processing for the students of the Engineering Department. We used *TIME: We the People* (NTC, 1989) as a textbook

for initial orientation and reading and the articles downloaded from the database, LEXIS/NEXIS, for further reading. Articles were distributed through the Mainframe BBS system, and students' reading reports were collected as electronic files. The use of the on-line system greatly reduced the trouble of searching, retrieving, editing, saving, and distributing materials.

During the first half of the spring term I taught the students how to read the news articles, stressing the importance of understanding the construction, topics, and the development of argument within articles. In addition to this, I taught students how to use computers for wordprocessing purposes. We carefully read five articles together during this period. During the second half of the spring term, I required each student to choose one unread article of their interest from the textbook, and submit a reading report with a summary, word list and critical commentary.

During the summer recess I started to search, choose, and download articles from the LEXIS/NEXIS database. Articles were chosen taking the students' interests and requests into consideration. I downloaded more than 700 articles and carefully selected 350 for classroom use.

During the first half of the fall term, I let each students make a presentation orally, based on the previously submitted reading report. All the class examined the presentation, and 10 students were specially assigned to give critical comments to a presenter. In the meantime I started to teach them how to use their computer in order to browse, retrieve and print out the articles stored in the mainframe. During the second half of the fall term, students started to download materials and read the articles by themselves. My role was to help students with their reading during the class. I encouraged them to go to the University Library and consult dictionaries, encyclopedias and books on related subjects to strengthen their understanding of the articles. Their final assignment was to hand in the reading report with critical comment on a chosen article/articles of more than 2000 words in length.

On the whole the BBS system functioned quite well and the students liked the class very much. At the end of the year I collected comments from students and they confirmed the great potentiality of individualized computer-aided reading class. The problems of accumulating the appropriate up-to-date materials as database, and training the students to have critical views on the topics, are yet to be addressed.